

KIYO
FINANCIAL GROUP



ミニ・ディスクロージャー誌

平成23年9月中間期
営業のご報告



株式会社紀陽ホールディングス
株式会社 紀陽銀行

株式会社 紀陽ホールディングス

設 立 日 平成18年2月1日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 583億50百万円
事 業 の 内 容 銀行等子会社の経営管理、
ならびにそれらに附帯する業務
上場証券取引所 東証第一部

※平成23年4月3日、大阪証券取引所への上場は廃止いたしました。

株式会社 紀陽銀行

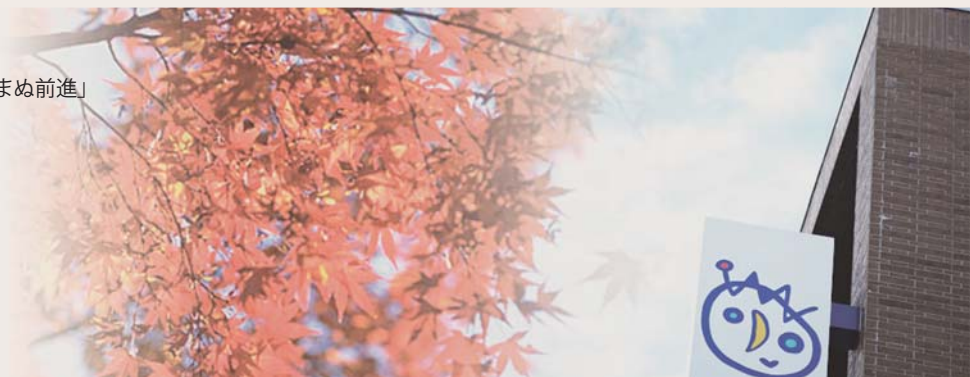
設 立 日 明治28年5月2日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 800億96百万円
店 舗 数 107店（和歌山県68カ店、大阪府36カ店）
（奈良県2カ店、東京都1カ店）
従 業 員 数 2,333名（出向者を除く）

※平成23年9月30日現在

※本冊子に記載している計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。

目 次

- 1 ごあいさつ
- 2 第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」
- 3 決算ハイライト
- 8 地域の皆さまとともに
- 18 財務諸表
- 20 ネットワーク
- 21 株式情報



KIYO FINANCIAL GROUP

紀陽フィナンシャルグループ

株式会社 紀陽ホールディングス

金融持株会社

紀陽ビジネスサービス
株式会社
事務代行等

株式会社 紀陽銀行

銀行業

阪和信用保証
株式会社
信用保証業務

紀陽リース・キャピタル
株式会社
リース業務・
ベンチャーキャピタル業務

株式会社
紀陽カード
クレジットカード業務
JCB/VISA

株式会社
紀陽カードディーシー
クレジットカード業務
DC

紀陽情報システム
株式会社
ソフトウェア開発業務等

※平成23年9月30日現在

ごあいさつ

皆さまには平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

ご挨拶に先立ちまして、当社グループの主要営業地域である和歌山県では、9月初旬、台風12号の豪雨による河川の氾濫や土砂災害等により、県南部を中心に甚大な被害を受けました。被災された皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。

また、紀陽銀行においては田辺市本宮町の本宮支店が9月5日～9月9日の間、浸水被害のため臨時休業せざるを得ない状況となり、お客さまにご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。

今回の災害発生により、紀陽銀行において「災害復旧支援特別融資」のお取扱いを開始するとともに、当社グループ社員が一丸となって被災地域での災害ボランティア活動等に取り組んでまいりました。今後も被災地復興に向けた取り組みを継続するとともに、被災地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、このたび「平成23年9月期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。業績の概要や第2次中期経営計画の進捗状況、また、最近の取り組み状況などをまとめておりますので、ご一読いただき、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

当中間期のわが国経済は、前半は東日本大震災の影響による生産設備の毀損や電力供給の制約などから、生産面を中心に弱い動きとなりましたが、その後、サプライチェーンの立て直しなどにより生産や輸出および個人消費などに持ち直しの動きがみられました。

和歌山県・大阪府においても持ち直しに向けた動きとなり、和歌山県での雇用情勢は横ばいながらも全国を上回る水準を維持しました。しかしながら、海外景気の回復力は弱く、円高や株価の低迷を背景に依然として企業景況感には厳しさがみられます。

当社グループの中間期の業績面につきましては、グループの中核会社である紀陽銀行において、営業体制の強化や様々な金融サービスの提供に取り組んでまいりました結果、収益基盤の中心となる中小企業などへの貸出金や住宅ローンおよび個人預金の残高が増加し、役務収益も拡大いたしました。また、事業の再生支援にも積極的に取り組んだことから、与信関連費用が減少し、業績予想を上回る利益を確保することができました。

当社グループでは、これからもお客さまの満足度を第一に考え、お客さまの良き相談相手として知恵を絞り、汗をかき行動してまいりますので、皆さまには、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年12月



取締役社長 片山博臣

平成21年4月よりスタートした第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」は、最終年度を迎えております。お客さまとの接点強化とお取引先数の増加による着実な成長を目指すとともに、営業基盤強化に基づく質的成長へ転換し、収益力を一層強化してまいります。

紀陽銀行の
目指す銀行像

「お客さまから選ばれ続ける銀行」
お客さまの満足を第一とする心を大切にし、お客さまの良き相談相手として知恵を絞り、汗をかき行動する銀行を目指します。

第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」

「営業基盤強化に基づく質的成長への転換」

顧客接点強化と取引先数増加
による着実な成長

経営管理態勢の強化

公的資金返済に向けた
態勢整備の完了

主要
戦略

地元エリアにおける競争優位の発揮

- 和歌山県内および堺・大阪府南部において経営資源を最大限に活用。
- お取引先数の増加を強く意識した営業推進を行う。

多様な顧客接点を生むための効率的な営業体制の構築

- お客さまの満足度を最大限に高めるための営業体制を実現。

安定成長を支える組織態勢の強化

- リスク管理態勢の強化とコンプライアンスの徹底を図る。

紀陽銀行 単体		平成22年9月期	平成23年9月期	
		実績	実績	前年同期比
規 模	預金等残高(譲渡性預金含む)(未残)	3兆3,418億円	3兆4,207億円	789億円
	貸出金残高(未残)	2兆4,598億円	2兆5,049億円	451億円
	うちローン残高	8,676億円	8,915億円	239億円
	投資信託残高(未残)	1,422億円	1,437億円	15 億円
収 益 性	コア業務純益	77億円	88億円	11億円
	コア業務純益ROA(コア業務純益/総資産)	0.41%	0.46%	0.05%
効 率 性	OHR(経費/業務粗利益)	63.82%	69.46%	5.64%
健 全 性	不良債権比率	3.60%	3.48%	△0.12%

紀陽ホールディングス 連結		平成22年9月期	平成23年9月期	
		実績	実績	前年同期比
収 益 性	当期純利益	54億円	56億円	2億円
健 全 性	自己資本比率	11.27%	11.79%	0.52%
	TierI比率	8.60%	9.03%	0.43%

紀陽ホールディングス【連結】

経常利益は77億円、中間純利益は56億円となりました。

平成23年9月中間期の紀陽ホールディングス連結の業績は、その他業務利益が減少する一方、営業経費や与信費用が減少し、さらに退職給付制度改定益を計上したことなどから、経常利益は前年同期比14億円増加の77億円、中間純利益は前年同期比2億円増加の56億円となりました。

業績予想

中間決算発表時までの業績内容や経営環境などを総合的に勘案し、平成24年3月期の通期連結業績予想については、当期純利益82億円を見込んでおります。

紀陽銀行【単体】

単位:億円			
	平成22年9月期	平成23年9月期	前年同期比
資金利益	254	257	3
役務取引等利益	20	22	2
その他業務利益	39	△ 1	△ 40
業務粗利益	314	279	△ 35
経費(△)	200	193	△ 7
一般貸倒引当金繰入額(△)	—	—	—
業務純益	113	85	△ 28
コア業務純益	77	88	11
臨時損益	△ 46	△ 3	43
うち不良債権処理額(△)	21	10	△ 11
うち貸倒引当金戻入益	—	24	24
うち償却債権取立益	—	6	6
経常利益	67	81	14
特別損益	29	14	△ 15
うち貸倒引当金戻入益	33	—	△ 33
うち償却債権取立益	6	—	△ 6
うち退職給付制度改定益	—	14	14
中間純利益	64	61	△ 3



業務粗利益とは

預金、貸出金、有価証券などの利息収支である「資金利益」、投資信託販売手数料など各種手数料の収支である「役務取引等利益」、外国為替、債券の売買損益などの収支である「その他業務利益」の合計です。

コア業務純益とは

「業務粗利益」から「経費」と「一般貸倒引当金繰入額」を差し引いたものが「業務純益」です。さらに、「業務純益」から一般貸倒引当金繰入額、債券関係損益の影響を控除したものが「コア業務純益」となります。銀行の本来業務での収益を表す指標です。

OHRとは

業務粗利益に占める経費の割合を表し、効率性を示す指標のひとつです。数値が低い方が、効率が良いとされています。

自己資本比率・TierI比率とは

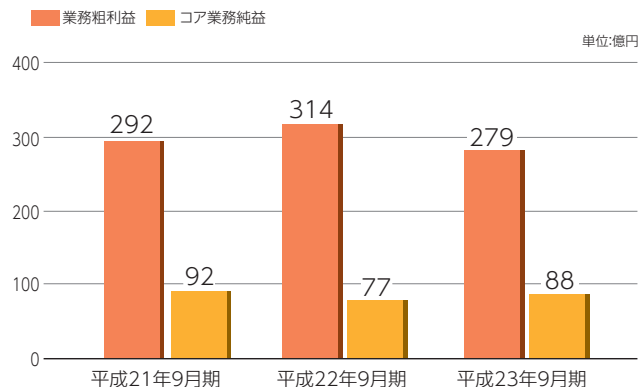
自己資本比率は、信用リスクアセット(総資産のうち貸倒の可能性のある資産)やオペレーショナル・リスク相当額(事務ミスなどから生じる損失に対して備えるべき額など)に対する資本金などの自己資本の割合を示します。TierIは、資本金や利益剰余金など自己資本の中核を占めるもので、リスクアセットに対する割合は、健全性を示す指標のひとつです。

損益面

紀陽銀行 単体

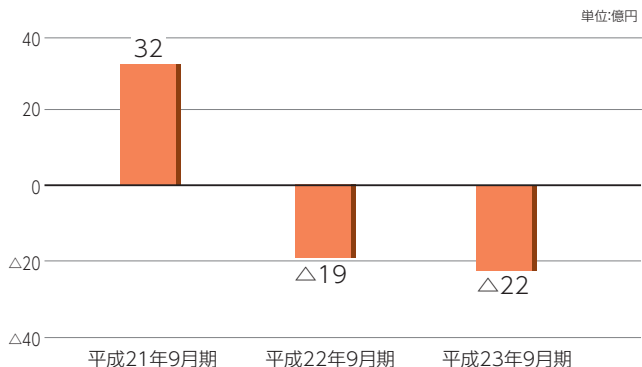
業務粗利益・コア業務純益

資金利益や役務取引等利益が増加し、経費削減も順調に進んだことから、コア業務純益は前年同期比11億円増加の88億円となりました。しかしながら、国債等債券売却益が減少したことから、業務粗利益は前年同期比35億円減少の279億円となりました。



与信コスト

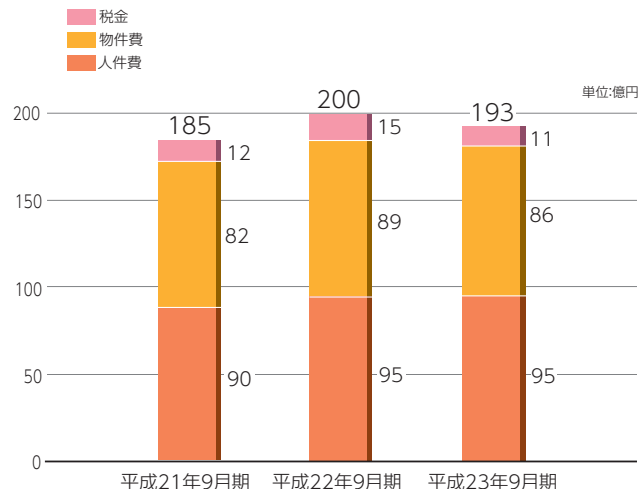
事業の再生支援に積極的に取り組んだ結果、与信コスト総額は前年同期比3億円減少の△22億円となりました。



※与信コスト総額は、一般貸倒引当金繰入額と不良債権処理額の合計に、貸倒引当金戻入益・償却債権取立益などの与信関連損益を加味して算出しています。

経費

経費削減に努めた結果、経費全体では前年同期比7億円の減少となりました。

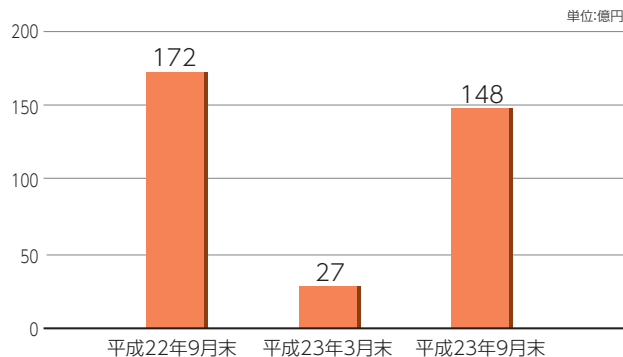


有価証券の状況

紀陽銀行 単体

その他有価証券評価差額は、前期末比121億円改善し148億円(益)となりました。

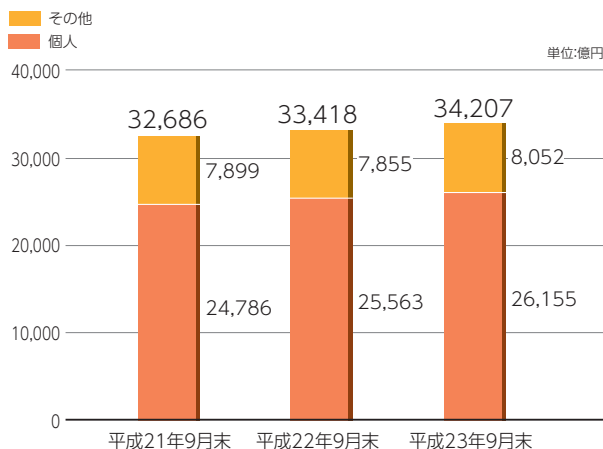
その他有価証券評価差額



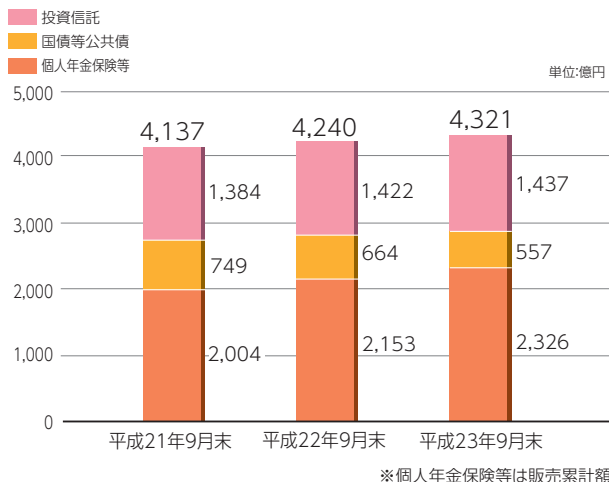
預金等および預かり資産の状況 紀陽銀行 単体

預金等残高は個人預金を中心に増加し、前年同期末比789億円増加の3兆4,207億円となりました。

預金等残高



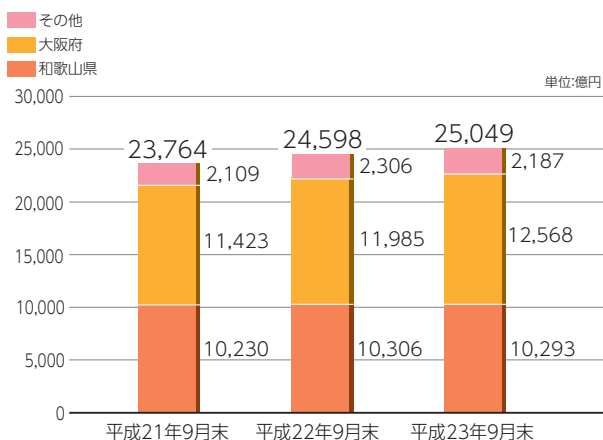
預かり資産残高



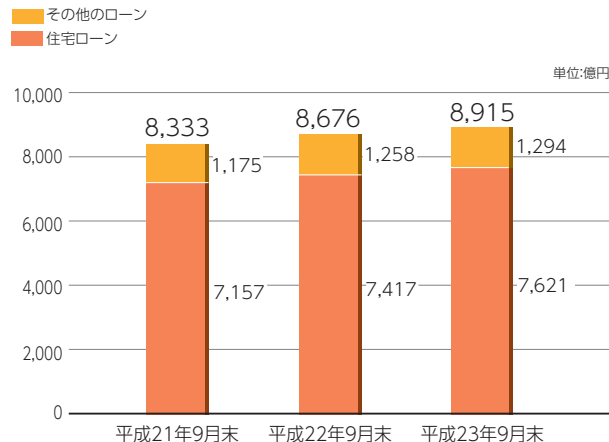
貸出金の状況 紀陽銀行 単体

中小企業向け貸出や住宅ローン残高が順調に増加したことから、貸出金残高は、前年同期末比451億円増加の2兆5,049億円となりました。

貸出金残高



ローン残高



自己資本比率

平成23年9月末の紀陽ホールディングス連結の自己資本額は、前期末比56億円増加し、2,095億円となりました。また、中小企業向け貸出などが順調に増加したことにより、リスクアセットも前期末比25億円増加しました。

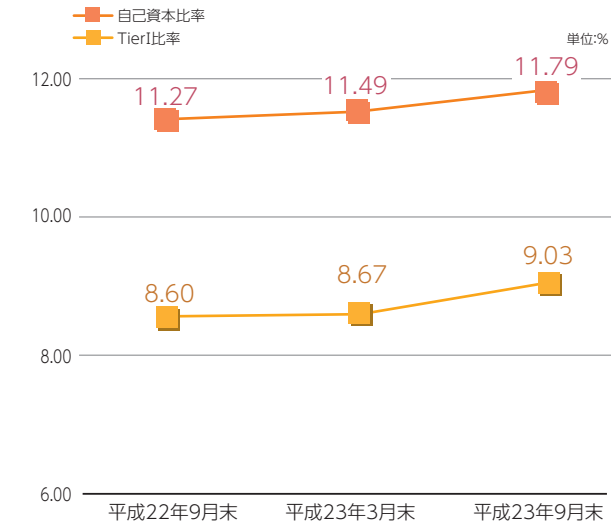
この結果、紀陽ホールディングス連結自己資本比率(第二基準)は、前期末比0.30%増加の11.79%となりました。なお、紀陽銀行単体の自己資本比率(国内基準)も、前期末比0.20%増加の11.12%となりました。

※第二基準とは、海外営業拠点を持たない銀行持株会社の基準です。
国内基準とは、海外営業拠点を有しない銀行の基準です。

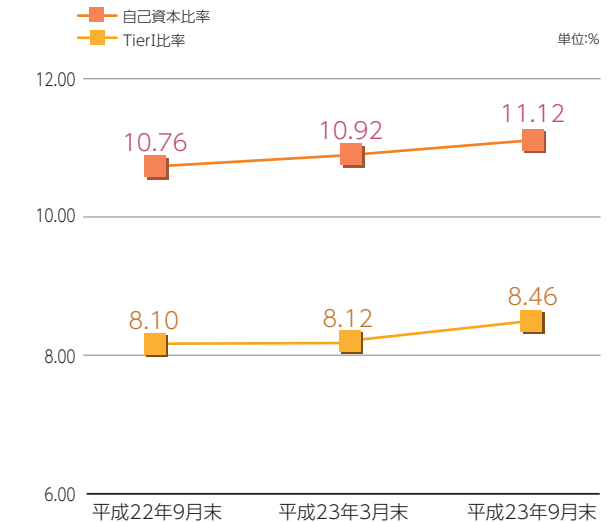
	自己資本比率	自己資本額			リスクアセット
			TierI	TierII	
紀陽ホールディングス 連結	11.79% (+0.30%)	2,095億円 (+56億円)	1,606億円 (+66億円)	489億円 (△9億円)	17,768億円 (+25億円)
紀陽銀行 単体	11.12% (+0.20%)	1,964億円 (+37億円)	1,494億円 (+61億円)	469億円 (△24億円)	17,666億円 (+28億円)

※()内は平成23年3月末対比

紀陽ホールディングス 連結



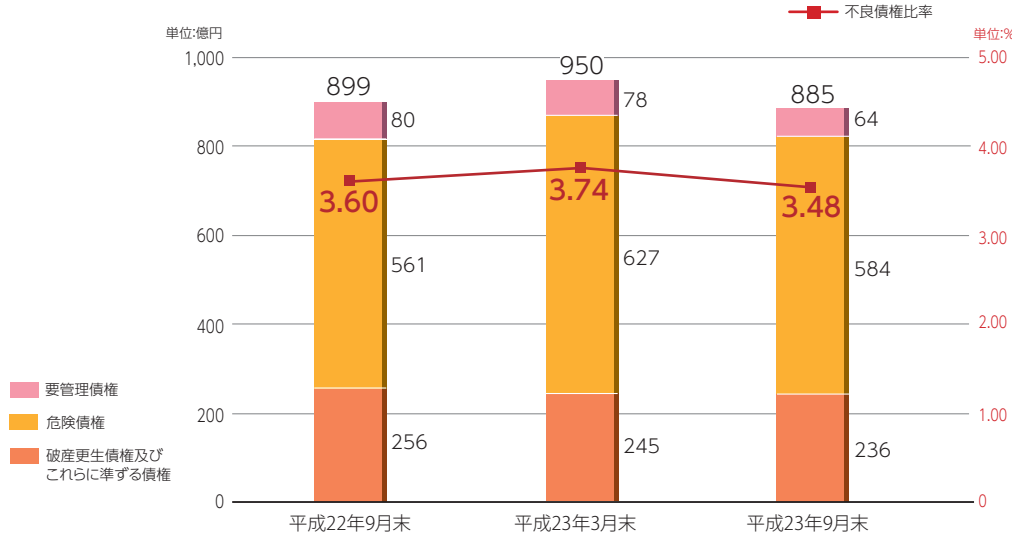
紀陽銀行 単体



不良債権(金融再生法開示債権) 紀陽銀行 単体

不良債権残高は前期末比65億円減少し、885億円となりました。

不良債権比率については、引き続きお取引先の事業再生や経営改善支援への取り組み強化を行っており、前期末比0.26%低下の3.48%となりました。



不良債権の保全状況

平成23年9月末の不良債権総額885億円のうち85.2%は担保や引当金などで保全されております。

単位:億円

	債権額 ^(※1)	保全額	担保・保証等		保全率
			担保・保証等	引当額	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ^(※2)	236	236	220	15	100.0%
危険債権 ^(※3)	584	486	387	99	83.3%
要管理債権 ^(※4)	64	32	24	8	49.6%
合計	885	755	631	123	85.2%

(※1) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計。

なお、銀行保証付私募債については「金融商品に関する会計基準」の適用に伴い、原則、貸借対照表計上額(時価)にて表示しております。

(※2) 破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

(※3) 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権。

(※4) 3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

地域の皆さまとともに ～預金・貸出金の状況～

現在、和歌山県内に68店舗、大阪府内に36店舗を配置し、両府県を主要な営業基盤としております。また、両府県に隣接する奈良県に2店舗、東京にも1店舗を出店し、お客さまの利便性向上に努めております。

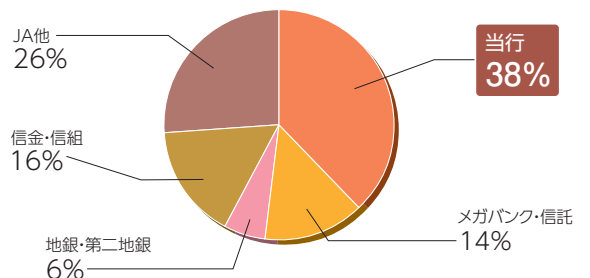
さらに営業体制の効果的活用により、多くのお客さまによりきめ細かな対応とサービスを提供し、地域の皆さまの貯蓄・資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主の皆さまの資金需要に対し、円滑な資金のご提供に努めております。

預金・貸出金の和歌山県内シェア

和歌山県では預金、貸出金ともにトップシェアを維持しており、これからも地域のリーディングバンクとして地域の発展に向け、ますます重要な役割を果たせるよう努めてまいります。

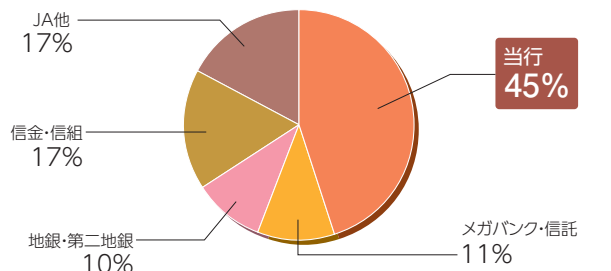
また、大阪府においても預金・貸出金とも順調に増加しており、より一層有力な地元銀行として認めていただけるよう営業体制の強化をすすめてまいります。

和歌山県内預金シェア



※平成23年3月末現在 ゆうちょ銀行、政府系金融機関除く

和歌山県内貸出金シェア



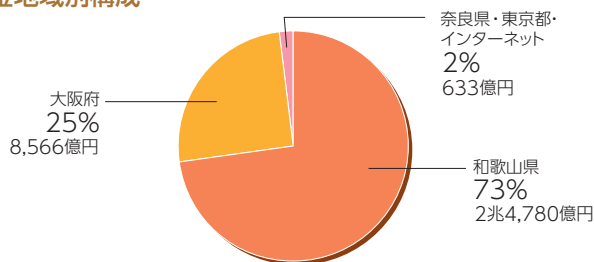
※平成23年3月末現在 ゆうちょ銀行、政府系金融機関除く

預金・貸出金の地域別構成

平成23年9月末の総預金残高（譲渡性預金を除く）3兆3,980億円のうち、98%の3兆3,346億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。

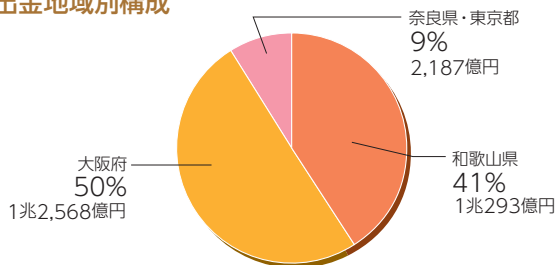
貸出金につきましても、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は2兆2,861億円となっており、総貸出金残高の91%を占めております。

預金地域別構成



※平成23年9月末現在

貸出金地域別構成

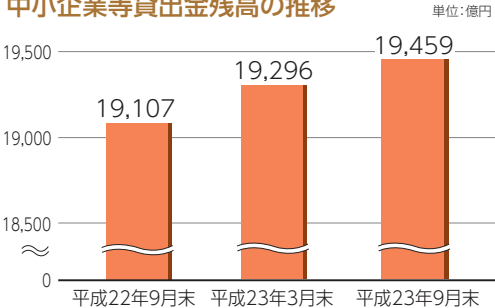


※平成23年9月末現在

中小企業・個人のお客さまへの貸出の状況

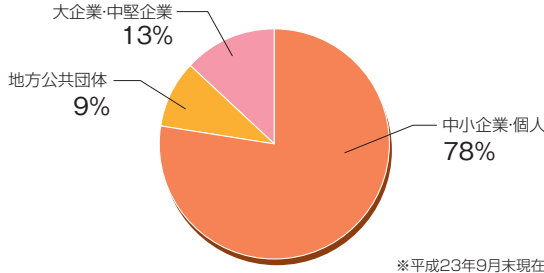
お客さまの様々な経営課題や資金ニーズに取り組ませていただいた結果、中小企業等貸出金残高は引き続き増加いたしました。平成23年9月末の中小企業等貸出金残高は、前期末比163億円増加し、1兆9,459億円となり、貸出金2兆5,049億円の約78%を占めております。

中小企業等貸出金残高の推移



※中小企業等貸出金とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、サービス業、小売業および飲食店は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人(ただし、卸売業およびサービス業は100人、小売業および飲食店は50人)以下の会社および個人への貸出金

中小企業・個人のお客さまへの融資の状況



金融円滑化への取り組み状況について

貸付条件の変更等のお申込みを受けた貸付債権の額および件数

	債務者が中小企業者である場合		債務者が住宅資金借入者である場合	
	件数	金額	件数	金額
貸付条件の変更等のお申込みを受けた貸付債権	10,150 件	2,897 億円	1,200 件	191 億円
うち、実行に係る貸付債権	9,211	2,600	853	130
うち、謝絶に係る貸付債権	197	72	48	9
うち、審査中の貸付債権	361	141	54	10
うち、取下げに係る貸付債権	381	84	245	40

(注)・記載している計数は、平成21年12月4日以降平成23年9月末までの累計。
・謝絶に係る貸付債権には、貸付条件の変更等のお申込みの日から3ヵ月を経過したことにより謝絶として計上しているものを含まず。

決済口座の状況

	和歌山 県内	大阪府・ その他	合 計
給与お受け取り口座数	216,537	60,905	277,442
公共料金お支払い口座数	288,500	87,985	376,485
年金お受け取り件数	130,824	41,238	172,062

※平成23年9月末現在 個人のみ

全国銀行協会相談室

全国銀行協会相談室は、銀行に関する様々なご相談やご照会、銀行に対するご意見・苦情を受け付けるための窓口として、一般社団法人全国銀行協会が運営しております。ご相談・ご照会は無料です。

詳しくは、一般社団法人全国銀行協会のホームページ(<http://www.zenginkyo.or.jp/adr/>)をご参照ください。

銀行とのトラブルがなかなか解決しないお客さまは「あっせん委員会」をご利用いただけます。

詳しくは、全国銀行協会相談室にお尋ねください。

電話番号 0570-017109 または 03-5252-3772 受付時間 9:00~17:00 (銀行窓口休業日を除く)

※一般社団法人全国銀行協会は銀行法および農林中央金庫法上の指定紛争解決機関です。

紀陽インターネット投資信託

お客さまの様々なニーズにお応えるため、平成23年10月より「紀陽インターネット投資信託」サービスを開始しました。インターネットを利用し、24時間365日好きな時間に投資信託のお取引ができるサービスです。窓口ラインナップのほか、インターネット投信専用ファンドもお取り扱いしており、今後も拡充していく予定です。

**ご来店不要で
お申込み可能!**

※当行に普通預金口座をお持ちの方に限ります

**24時間365日
いつでも
お取引可能!**

※システムメンテナンス時間を除きます

**申込手数料(税抜)
が窓口より
10%割引!**

※投信自動積立は対象外です

詳しくは、紀陽銀行ホームページをご覧ください。ご利用までの流れを分かりやすく動画でご説明しています。

ご利用いただける
お客さま

- 以下のすべての条件を満たすお客さま
- (1) 個人のお客さまで、本サービスをお申込み時点で満20歳以上の方
 - (2) パソコンまたは携帯電話のEメールアドレスをお持ちの方(携帯電話からのお取引はできません)
 - (3) すでに当行に本人確認済の普通預金口座(総合口座)をお持ちのお客さま(当行に普通預金口座をお持ちでないお客さまは、窓口にて普通預金口座開設の手続きが必要です)
- ※東京支店およびインターネット支店の口座を除きます。また団体名義や屋号つきの口座はご利用いただけません。

インターネット
投資信託で
ご利用いただける
サービス

- 投資信託の購入・解約
- 取引内容照会
- 投資信託の取引口座開設の申込み
- 定時定額購入サービス(積立投信)の申込みと解除
- 保有状況照会

<http://www.kiyobank.co.jp>

紀陽銀行 投資信託

検索

個人のお客さまに関するご相談にお応える「紀陽 お城の前の相談室」

和歌山市役所東隣の紀陽和歌山中央ビル4階にある「紀陽お城の前の相談室」は専門スタッフを配置し、投資信託や保険をはじめ年金、相続・遺言のご相談まで、ライフプランや家計に関するご相談に幅広くお応えしています。

また、外部講師やファイナンシャルアドバイザーを講師として、暮らしに役立つセミナーを多数開催しております。

平日は午後7時まで、土曜・日曜は午後5時まで営業しておりますので、お仕事帰りや休日にもゆっくりご相談いただけます。ぜひお気軽に「紀陽 お城の前の相談室」をご利用ください。

受付時間、休業日、セミナー・相談会の日程など詳細につきま

しては、紀陽銀行本支店に備え付けの「紀陽 お城の前の相談室セミナー・相談会のご案内」または紀陽銀行ホームページをご覧ください。



紀陽ハートフルプラザ

ご預金や資産運用のご相談に関する利便性の向上を目指し、個人のお客さま専用の店舗として設置しております。和歌山県内では、和歌山市内に2ヵ店と橋本市内に1ヵ店、大阪府内では堺市と泉大津市に各1ヵ店、合計5ヵ店出店しております。今後も、お客さまのニーズにお応えできるようサービスの拡充を図ってまいります。



ハローサービスセンター

お客さまのお役に立つ情報を発信するコールセンターです。様々な商品・サービスやキャンペーン、年金相談会などのご案内を行っております。また、お客さまからのご質問や、無担保ローンの受付も行っております。



商品・サービスのお問い合わせ	電話番号 0120 (037) 389 (9:00～17:00 銀行窓口休業日を除く)
無担保ローンの受付	電話番号 0120 (600) 964 (平日9:00～21:00、土・日・祝日 9:00～17:00) (年末・年始の銀行窓口休業日を除く)



<キヨー>ふれあい倶楽部

年金受給者向けサークル<キヨー>ふれあい倶楽部では、会員向けサービスとして、①加盟店での優待割引サービス、②著名人・芸能人を迎えての講演会・セミナーやカルチャースクールへの無料ご招待、③名産品プレゼントなどがお楽しみいただけます。

入会のお手続きは不要で、紀陽銀行で年金自動受け取りのお手続きをしていただければ自動的に会員(会費無料)となります。



サービス概要

♥優待割引サービス

和歌山県内全域、大阪府南部を中心とする加盟店(平成23年10月現在913カ店)で、会員証をご提示いただくと、優待割引サービスが受けられます。

♥講演会・セミナー

各地で、著名人・芸能人の講演会やセミナーに、抽選で無料ご招待いたします。

♥カルチャースクール

各地で、陶芸などの人気の高いカルチャースクールに、抽選で無料ご招待いたします。

♥名産品プレゼント

季節ごとのプレゼントや地方の名産品を抽選でプレゼントいたします。



♥お祝いの品をプレゼント

喜寿、米寿のお誕生日にお祝いの品をプレゼントします。

年金無料相談会

年金に関するご質問やご相談に、年金の専門家である社会保険労務士が個別にお答えする「年金無料相談会」を和歌山県内、大阪府南部の各地で開催しております。

平日にお越しいただけないお客さまのために、休日相談会も開催しております。

■相談会受付専用ダイヤル

電話番号 **0120-046389** 平日9:00～17:00 土・日曜11:00～17:00

(開催月により、開催場所・開催日時が異なります)



当社グループでは、経営課題解決に向けたお手伝いや成長支援、また地域のお客さまの利便性向上に向けた地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

独自のノウハウに加え、外部の専門家(弁護士、税理士、コンサルティング会社等)や公的機関(国、府県、政府関連機関等)とのネットワークを活用し、地元企業の成長や経営課題の解決に向けて、より強力に取り組む体制を構築しています。

円滑な事業承継をサポート

法人の事業承継は税法や民法の関係で思わぬ障害が発生することがあります。スムーズに事業を後継者に引き継ぐための気付きとその具体的対策をご提案しています。

納税資金の確保や株式分散の解消に対応し、お取引先が抱える事業承継問題解決に積極的に対応しております。気付きのきっかけとして平成23年2月に堺市、9月に和歌山市にて外部機関と連携した「事業承継セミナー」を開催しました。

また、後継者がいないという問題についても、M&Aにより外部から経営者を迎え入れるなどの対策をご提案しています。



お取引先の販路拡大支援

商談会やビジネスマッチングの機会を活用し、お取引先の販路拡大を支援しております。

昨年より取り組んでいる「地方銀行フードセレクション」では多くの商談が成立し、お取引先の売上に貢献できました。

そのほか、海外販路開拓においても株式会社JTB西日本と連携して上海で商談会を開催するなど積極的に取り組んでいます。



地方銀行フードセレクション(東京)



JTB西日本と連携した商談会(上海)

地元企業と人材をマッチング

地元企業にとって人材の確保が重要な経営課題になっているにもかかわらず、大手企業に押され採用活動は厳しいものとなっています。

その要因として、地元企業が直接学生に自社をPRする機会が少なく、また、学生にとっても地元企業の情報が不足していることなどが考えられます。

こうした地元企業と学生側の双方の声をマッチングさせ、地元企業への就職機会の創出と増大につなげることを目的に「企業合同説明会」を開催しております。

さらに平成23年9月中間期は和歌山大学の留学生を地元企業に紹介する取り組みも行いました。

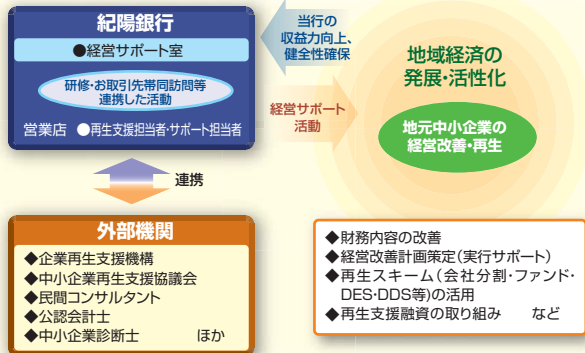


経営改善のサポート

経営環境の低迷が続くなか、お客さまとのコミュニケーションをより深めることにより、財務内容の改善や適正な事業運営に向けた経営改善計画の策定についてお手伝いしております。

企業再生支援機構、中小企業再生支援協議会などの外部機関や政府系金融機関などとも連携し、お客さまに応じた最適な手法を選びながら、お客さまの経営改善や抜本的な再生に取り組んでおります。こうした取り組みを通じ、平成23年9月中間期は55先の債務者区分がランクアップ(※)いたしました。

※ご融資先を財務内容などにより正常先、要注意先、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の5段階に区分し、経営改善や事業再生などにより上位のランクに引き上げること



経営サポート室

経営内容の改善に取り組まれているお客さまの改善計画策定や財務内容の改善に向けたお手伝いをするため、経営サポート室を設置しております。お客さまにふさわしい改善方法をご提案できるよう、営業店と一体となって取り組んでおります。

公的支援施策の活用

外部機関と積極的に連携することで地域経済の活性化に取り組んでおります。公的支援策の活用について和歌山県では例年通り行い、平成23年9月中間期から新しく堺市と大阪市の助成金の説明会を当行お取引先向けに開催しました。



産学連携による地域機能の活用

地域経済の活性化と地場産業振興を目的として和歌山大学、和歌山県立医科大学、大阪府立大学、近畿大学、和歌山工業高等専門学校の各校と連携協定を締結しております。

お取引先の新規事業への進出サポートのため、県立医科大学と連携した「異業種交流会」を平成23年3月と8月に開催しました。

また、産学連携により当行が仲介した企業との共同研究も成果を上げております。



「異業種交流会」の様子

トピックス

和歌山県が提案した地域特性をいかした分野での研究開発型の産業育成を行うための計画が「文部科学省平成23年度地域イノベーション戦略推進地域」に採択されました。この計画には、地域の大学や自治体とともに紀陽銀行が参画しております。(テーマ名: 和歌山県特産農産物を活用した健康産業イノベーション推進地域)

今後は、関係機関と連携しながら、和歌山県の農産物(柑橘、柿、梅等)をいかした医農連携をキーワードに健康産業イノベーションの創出を推進していきます。



近畿大学との連携協定調印式の様子

紀陽フィナンシャルグループでは、環境保全や社会貢献活動に積極的に取り組んでおります。

環境保全・美化活動

ISO14001認証取得

紀陽銀行では、平成13年3月に本店敷地内を対象としてISO14001の認証を取得し、また、紀陽フィナンシャルグループ全体としても環境に配慮した取り組みを行っております。

地域の環境美化活動への参加

紀陽銀行では、創立100周年を機に平成7年6月に「紀陽銀行小さな親切の会」を発足させ、同時に社団法人「小さな親切」運動本部に加入しました。毎年、同会の活動の一環として、各営業店エリアにおける清掃活動や地元の催し物へのボランティア参加、献血への協力などの活動を行っております。

今後も、これまで以上に地元のお客さまのお役に立てるよう積極的に取り組み、地域づくりのお手伝いをしてまいります。



和歌山県「企業の森」事業

紀陽銀行では、環境保護活動への取り組みの一環として、和歌山県が森林の環境保全を目的として実施している「企業の森」事業に参画しています。平成18年4月より、和歌山県日高川町の「紀陽の森」において活動を開始、これまでに約3,300本の植樹を行いました。毎年、社内にてボランティアを募り、下草刈り活動を通じて森林の保全活動を行っております。



環境に関連した金融商品の取扱い

紀陽銀行では、ISO認証取得や新たに環境ビジネスに参入するなど環境に関連した運転資金や設備投資に対する融資、ソーラーローン、エコ車両購入向けのローンなどのお取扱いを行っております。



CSRレポートの発刊

紀陽フィナンシャルグループではこのたび、当グループのCSR(社会的責任)活動をより多くの方にご理解いただくために、「CSRレポート2011」を新規発刊しました。当グループの活動全体を紹介するとともに、営業店での独自の取り組みも紹介しております。本誌は紀陽銀行の各営業店および関連各社に設置していますので、ぜひご覧ください。



業界団体への参画

紀陽銀行では、全国の地方銀行が協力して環境保全に取り組む「日本の森を守る地方銀行有志の会」や、堺市と堺市内へ出店する金融機関が協力して環境保全に取り組む「SAKAIエコファイナンスサポーターズ倶楽部」へ参加し、積極的に環境問題に取り組んでおります。

エコ販促品の利用

紀陽銀行では、店頭などでお客さまにお渡しするPR用頒布品に環境に配慮した商品を導入しています。例えば、再生紙100%のポケットティッシュや、使用後にそのまま古紙回収に出せるアルミキッチンホイル、蛍光増白剤・柔軟材および塩素系漂白剤を使用せず環境に配慮した生産工程で作られたタオルなどがあります。



環境活動を行う事業者さまへのご支援

紀陽銀行では、三菱東京UFJ銀行と「環境融資等に関する業務協力協定」を締結し、両行が連携して地域環境の保護ならびに環境事業の支援に積極的に取り組み、地域企業の発展・地域経済の活性化に貢献しております。

また、平成21年3月にはオリックス株式会社と「環境負荷削減支援事業」に関する基本契約を締結し、地元企業の皆さまにESCO事業をご支援しております。

※ESCO事業(Energy Service Company)とは

環境負荷低減のための設備および省エネ等の役務を提供する事業です。工場やビルの省エネルギーに関する診断をはじめ、改修工事、導入した設備やシステムの保守・管理にいたるまでESCO事業者が一括して管理し、省エネ効果を保証する仕組みです。

社会貢献活動

財団法人 紀陽文化財団

紀陽コンサートの開催

紀陽文化財団設立以来の恒例行事として、毎年クラシック音楽のコンサートを開催しております。迫力あるオーケストラの演奏や一流の演奏者による室内楽コンサートなどを通じ、地域の皆さまに数々のクラシックの名曲を楽しんでいただいております。



美術館・博物館への無料ご招待

和歌山県立近代美術館・博物館で開催される特別展をはじめとした展覧会に地域の皆さまをご招待(ハガキによるお申込み、お申込み多数の場合は抽選)しております。

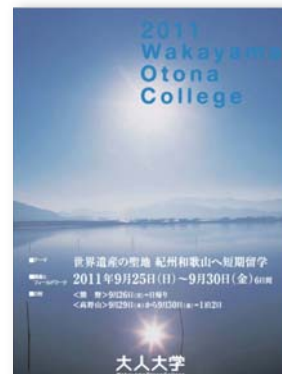
また、毎月第4土曜日を「紀陽文化財団の日」とし、和歌山県立近代美術館・博物館への大学生の入場料を負担し、無料としております。

地域の金融教育への取り組みや地域文化のPR

和歌山県が実施している「産業人材育成支援事業」の一環として、和歌山大学や和歌山工業高等専門学校において、紀陽銀行の社員が講義を行っております。

また、和歌山大学・株式会社和歌山リビング新聞社と連携して、奥深い文化、歴史がある地元和歌山の魅力を伝えていく取り組み「大人の大学」を昨年に続く第3回目として、平成23年9月に開催しました。

地元の方でも新たな発見を体験できる取り組みになっています。



社会貢献活動

地域の安全のために

全営業店へのAED設置

地域の皆さまに万一救命措置が必要となった場合に備えて、紀陽銀行では全営業店のATMコーナーや住宅ローンセンターなど112カ所にAED(自動体外式除細動器)を設置しております。



振り込み詐欺への対応

振り込み詐欺対策として、携帯電話感受装置を県内12カ所、県外1カ所の店舗外ATMコーナーに設置しております。振り込み詐欺は、ATMコーナーに誘導する手口が多く、ATMコーナーでの携帯電話の使用を制限することにより、少しでもお客さまの被害防止になればと考えております。また、お客さまへのお声かけについても積極的に行っております。



スポーツを通じたCSR活動

バスケットボール部の新設

紀陽フィナンシャルグループでは、平成23年4月1日に女子バスケットボール部を新たに設立しました。今回設立しました女子バスケットボール部は、平成27年に和歌山県で開催が予定されている「紀の国わかやま国体」に向けてチーム力の強化に取り組むとともに、ジュニアバスケットボールチームの子どもたちへの指導等を通じて、地元から愛されるチームとして地域に根付いた活動を行ってまいります。



「地元スポーツチーム応援定期」取扱い

平成23年11月1日から平成24年2月10日まで、バレーボールVプレミアリーグに加盟する男子バレーボールチーム「堺ブレイザーズ(本拠地:大阪府堺市)」の応援定期のお取扱いを行い、地元スポーツチームを地域の皆さまとともにサポートしております。



各種大会への協賛・地域行事への参加

紀陽銀行は、「和歌山県綱引選手権大会」や少年野球大会、卓球大会などに協賛しております。また、「和歌浦ベイマラソン With JAZZ」の運営ボランティア派遣や和歌山市の夏の中心的イベントの一つである「紀州おどり」への参加など、地域の各種イベントへの参加を通じ、地域の皆さまとの交流を深めております。



和歌山県綱引選手権大会



和歌浦ベイマラソン With JAZZ

障がいのあるお客さまへの対応

紀陽銀行では、目の不自由な方にも安心してご利用いただけるよう、すべてのATMに受話器型の音声案内装置の設置をすすめております。平成22年度には店舗外ATMを含めたすべての拠点に同機能付ATMを1台以上設置いたしました。平成23年度中にはすべてのATMへの設置を完了する予定です。

平成23年10月には、和歌山県視覚障害者福祉協会の研修会に、講師として紀陽銀行社員が参加し、ATMのデモ機を使って、視覚障がい者の方に実際にATMの操作体験をしていただきました。

また、耳が不自由な方の利便性向上のため、全店に耳マーク表示板とコミュニケーションボードを設置しております。



音声案内装置



音声案内装置付ATMの操作体験研修会



コミュニケーションボード



耳マーク表示板

小学生向け金融セミナーを開催

和歌山市の中心市街地活性化を目的とした和歌山大学学生有志のNPO団体「わかやまヒューマンカレッジアフターの会」が主催する「オープンカフェWith」において、紀陽銀行では小学生向けの金融セミナー「お金の学校」を開催いたしました。

お金の役割や銀行の仕事についての説明のほか、国によって通貨が異なることを学べるゲームといった楽しいイベントになりました。



東日本大震災に係る取り組み

紀陽銀行では、東日本大震災による被害を受けられた事業者の方々に対する支援の一環として「東日本大震災緊急特別融資」のお取扱いや東日本大震災の被災地復興にお役立ていただくために、「紀陽復興支援定期預金」のお取扱いを行いました。

また、東日本大震災により被害を受けた地域の復興資金の供給を支援する目的で、「東日本復興支援債権ファンド1105」(投資信託)も購入いたしました。



台風12号に係る取り組み

紀陽フィナンシャルグループでは、平成23年9月の台風12号により被災された方々への支援として様々な取り組みを行っています。

●被災地域でのボランティア活動実施

平成23年9月10日より被災地域において、清掃活動などのボランティア活動を行い、これまでに延べ580人のグループ社員が参加いたしました。

●被災にかかる義援金等を窓口で振り込む場合の振込手数料の無料化

●紀陽銀行営業店窓口で義援金募金箱を設置

●「災害復旧支援」特別融資のお取扱い開始

紀陽ホールディングス(連結)

第7期中 中間連結貸借対照表

(平成23年9月30日現在)		単位:百万円	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	54,881	預金	3,394,719
コールローン及び買入手形	30,263	譲渡性預金	22,770
買入金銭債権	3,138	債券貸借取引受入担保金	5,958
商品有価証券	2,811	借入金	22,359
有価証券	1,008,507	外国為替	65
貸出金	2,498,484	社債	18,000
外国為替	1,836	その他負債	45,104
その他資産	44,709	退職給付引当金	28
有形固定資産	33,720	役員退職慰労引当金	32
無形固定資産	14,989	睡眠預金払戻損失引当金	564
繰延税金資産	22,104	偶発損失引当金	359
支払承諾見返	15,841	支払承諾	15,841
貸倒引当金	△ 27,618	負債の部合計	3,525,804
		(純資産の部)	
		資本金	58,350
		資本剰余金	64,601
		利益剰余金	43,775
		自己株式	△ 939
		株主資本合計	165,787
		その他有価証券評価差額金	9,620
		繰延ヘッジ損益	327
		その他の包括利益累計額合計	9,947
		少数株主持分	2,131
		純資産の部合計	177,866
資産の部合計	3,703,671	負債及び純資産の部合計	3,703,671

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第7期中 中間連結損益計算書

(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)		単位:百万円	
科 目	金 額	科 目	金 額
経常収益			44,319
資金運用収益	29,522		
(うち貸出金利息)	(22,902)		
(うち有価証券利息配当金)	(6,447)		
役務取引等収益	5,698		
その他業務収益	5,112		
その他経常収益	3,985		
経常費用			36,545
資金調達費用	3,717		
(うち預金利息)	(3,062)		
役務取引等費用	1,952		
その他業務費用	4,901		
営業経費	21,167		
その他経常費用	4,805		
経常利益			7,774
特別利益			1,491
特別損失			24
税金等調整前中間純利益			9,241
法人税、住民税及び事業税	315		
法人税等調整額	3,272		
法人税等合計			3,587
少数株主損益調整前中間純利益			5,653
少数株主利益			24
中間純利益			5,629

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結範囲および持分法の適用に関する事項
連結子会社は7社、持分法適用会社は0社であります。

連結子会社
・株式会社紀陽銀行
・紀陽情報システム株式会社
・紀陽ビジネスサービス株式会社
・阪和信用保証株式会社
・紀陽リース・キャピタル株式会社
・株式会社紀陽カード
・株式会社紀陽カードディーシー

役員一覧(株式会社 紀陽ホールディングス)

(平成23年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)	片 山 博 臣	取締役	阪 本 彰 央	監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
専務取締役	米 坂 享	取締役(社外取締役)	水 野 八 朗	監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰
常務取締役	泉 清 映	監査役(常勤)	玉 井 享	監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之
常務取締役	成 田 幸 夫	監査役(常勤)	樋 口 勝 二		

紀陽銀行(単体)

第202期中 中間貸借対照表

(平成23年9月30日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	54,324	預金	3,398,022
コールローン	30,263	譲渡性預金	22,770
買入金銭債権	3,138	債券貸借取引受入担保金	5,958
商品有価証券	2,811	借入金	21,578
有価証券	994,595	外国為替	65
貸出金	2,504,980	社債	18,000
外国為替	1,836	その他負債	35,786
その他資産	32,600	役員退職慰労引当金	32
有形固定資産	33,975	睡眠預金払戻損失引当金	564
無形固定資産	7,807	偶発損失引当金	359
繰延税金資産	20,257	再評価に係る繰延税金負債	213
支払承諾見返	15,839	支払承諾	15,839
貸倒引当金	△ 23,797	負債の部合計	3,519,191
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	32,357
		資本準備金	259
		その他資本剰余金	32,097
		利益剰余金	37,020
		利益準備金	2,373
		その他利益剰余金	34,646
		繰越利益剰余金	34,646
		株主資本合計	149,473
		その他有価証券評価差額金	9,326
		繰延ヘッジ損益	327
		土地再評価差額金	315
		評価・換算差額等合計	9,969
		純資産の部合計	159,443
資産の部合計	3,678,634	負債及び純資産の部合計	3,678,634

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第202期中 中間損益計算書

(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	40,860
資金運用収益	29,449
(うち貸出金利息)	(22,847)
(うち有価証券利息配当金)	(6,429)
役務取引等収益	4,615
その他業務収益	3,084
その他経常収益	3,710
経常費用	32,721
資金調達費用	3,713
(うち預金利息)	(3,062)
役務取引等費用	2,322
その他業務費用	3,195
営業経費	19,222
その他経常費用	4,267
経常利益	8,138
特別利益	1,491
特別損失	24
税引前中間純利益	9,605
法人税、住民税及び事業税	31
法人税等調整額	3,391
法人税等合計	3,422
中間純利益	6,183

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表

役員一覧(株式会社 紀陽銀行)

(平成23年9月30日現在)

取締役頭取(代表取締役)	片 山 博 臣	取締役	上 野 隆 司	監査役(常勤)	玉 井 享
専務取締役	米 坂 享	取締役	北 山 隆 一	監査役(常勤)	樋 口 勝 二
常務取締役	泉 清 映	取締役	鈴 木 健次郎	監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
常務取締役	松 岡 靖 之	取締役	鈴 木 教 秀	監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰
常務取締役	森 川 保 彦	取締役	島 慶 司	監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之
常務取締役	成 田 幸 夫				

営業エリア・店舗ネットワーク

紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を中心に107店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネットワークを展開しております。

また、セブン銀行、ローソンとの提携により、全国のセブンイレブンやローソンに設置されたATMで紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけます。

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	68	117
大阪府	36	37
奈良県	2	1
東京都	1	—
三重県	—	1
合計	107	156

(インターネット支店含む)

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽 お城の前の相談室」、インストアランチ「プラザ イズミヤ和歌山店」、外貨両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター(9カ所)、ビジネスサポートセンター(本店内)を開設しております。

和歌山市中心部



(出): 出張所



■発行済株式総数

普通株式	741,287,025株
第二種優先株式	3,875,500株
第4回第一種優先株式	45,000,000株

■株主総数

普通株式	24,539名
第二種優先株式	493名
第4回第一種優先株式	1名
(株式会社整理回収機構)	

■配当方針

利益配分につきましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

■株主名簿管理人

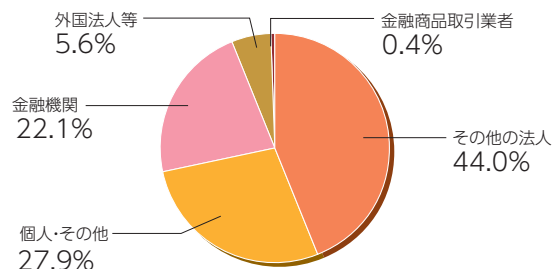
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所

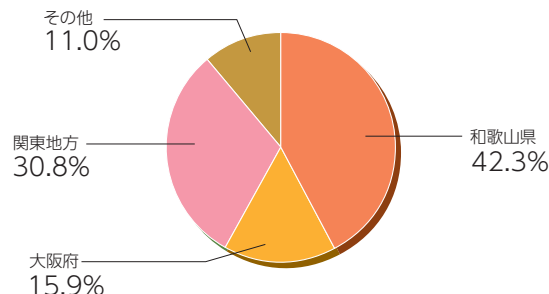
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話無料)

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。

■所有者別株式分布(平成23年9月末)



■地域別株式分布状況(平成23年9月末)



株式に関する各種手続き

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更につきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主さまは、左記の三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部)へお届けください。

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(1,000株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。詳細につきましては、左記〈株式事務取扱場所〉までお問い合わせください。

(追記) なお、手続きに必要な書類等については、当社ホームページより左記株式事務取扱場所のホームページにお入りいただき、検索することができます。

[紀陽フィナンシャルグループHP <http://www.kyfg.com/>]



平成23年12月発行
株式会社 紀陽ホールディングス
グループ企画部 広報グループ
〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地

株式会社 紀陽ホールディングス

和歌山市本町1丁目35番地
<http://www.kyfg.com/>

株式会社 紀陽銀行

和歌山市本町1丁目35番地
<http://www.kiyobank.co.jp/>

表紙写真提供：アドベンチャーワールド

南紀白浜のアドベンチャーワールドでは、現在、8頭のジャイアントパンダが暮らしています。これは中国以外では世界で一番の大家族です。

また、高野山・熊野古道は国内だけでなく国外からも最高レベルの観光地であると高い評価を得ています。是非とも、和歌山にお立ち寄りください。